

村の祭りと農業生産

ふるさとの祭りと 年中行事 ②

かつての村里では、稲刈りが終わると、村はずれの鎮守の森には、笛や太鼓のお囃子が軽やかに響きわたったものです。

わたしたちの祖先は、貧しく汗みどろな生活の中にあっても、五穀豊饒・家内安全を祈りつつ、地方特有の祭りを創り出してきました。

とりわけ、鎮守社の祭礼は、稲作など農事と密接に関係しており、また、村人の精神生活にも深い関係をもっていました。稲の豊作を祈り、その収穫に感謝する村の祭りは、人々の気持を昂揚させ、村の団結をも強めていったのです。

黒潮寄せる九十九里浜、発展を続ける市街地、緑輝く北部の台地。この広々と連なるふるさとの大地には、豊かな稔りをもとめて努力した人々の汗の歴史が刻み込まれています。かつての農村では、個々の農業生産を支えるために、耕地・用水・道路・山野など、共同で維持管理してきました。

その共同体の象徴として、「産土神」をまつる鎮守社があり、祭礼を通して地域（むら）の連帯感が確認されてきました。現在、ふるさとの農村は、

激しく変化しています。曲折する農業情勢や変貌する生活環境の中で、「農の祭り」の主人公である人々の連帯感は断ち切られ、地域を活性化させるエネルギーを失いつつあります。消えゆく伝統的行事の奥底にあるものは、まさに「村落共同体」の崩壊にほかならないのです。しかし、反面では、各地区

に神楽・獅子舞などの保存会が結成され、また、新島や北清水など、新しい地域の祭りが創造されつつあります。このような動きは、単なる伝統芸能の保存や地域のイベントではなく、地域の活性化を志向する「地方復権」への挑戦として捉えなければなりません。

昔懐かしい笛や太鼓のお囃子は、疎外・差別・分断の進行に苦悩する現代の農業関係者に、共同体としての「村」の大切さと、大地と生産を守りぬく知恵と勇気を与えてくれます。見せかけだけの豊か

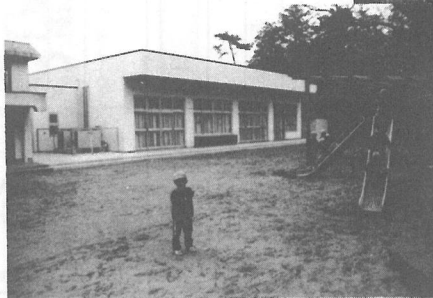


鳥喰の獅子舞(大神楽)

人と心のふれあいの場

第1保育所遊戯室(下)

鉄筋コンクリート造約72坪
工事費 4,000万円



上町共同利用施設(上)

鉄筋コンクリート造約55坪
工事費 4,310万円

地域の人たちのふれあいの場として上町共同利用施設が、また、第一保育所に遊戯室が完成しました。

さだけでなく、家々に働く人々の笑い声があふれ、村中に信頼と協力関係が築かれてこそ村の祭りは甦るのです。そんな熱い願いを込めて、町教育委員会の「ふるさとの祭りと年中行事」の調査に期待し、その成果の大きいことを密かに念じています。季節は五月、さわやかな風の中で村は動き出しました。(文化財審議委員・伊藤一男)